

【道徳・中3・「将来の自分を見つめて」C 勤労】①

育成を目指す資質・能力

職業選択に関する様々な立場からの意見に触れ、将来の生き方について考えを深め、充実した生き方を実現しようとする心情を育てる。

ICT活用のポイント

学習履歴の活用 / 意見の可視化・共有化 / 学習履歴の蓄積

【導入】

既習内容を振り返る

<めあて>

将来、職業を選択するときに大切にしたいことについて考えよう

【展開】

道徳的価値について考えをもち、交流する

<中心発問>

将来、職業選択するときに大切なことはどのようなことでしょうか

道徳的価値に対する考えを伝え合い、さらに考えを深める

【終末】

めあてについて再考し、本時の学習について振り返る

事例の概要 教材名：「好きな仕事か安定かなやんでいる」（東京書籍）

<事例におけるICT活用の場面①【導入】>

○既習内容(同内容項目や他教科での授業)を、写真や文章で提示して本時のめあてに向けた、課題意識がもてるようにする。

<事例におけるICT活用の場面②【展開】>

- 事前アンケートを集約した円グラフを提示し、グループでの話し合い活動を深める。
- 中心発問に対してグループ協議し、協議内容を学習支援ソフトへまとめ、全体へ共有する。

<事例におけるICT活用の場面③【終末】>

○まとめられたグループ協議内容を集約したり、机間支援でとらえた意見を入力したりして、生徒の変容を記録し、授業の評価や、学級通信で紹介するなど事後指導で活用する。

【道徳・中3・「将来の自分を見つめて」C 勤労】②

事例におけるICT活用の場面

【導入】



前年までの同内容項目や他教科の授業資料、授業後の感想等を大型提示装置に提示する。

<ICTを効果的に活用するためのポイント>

本時で扱う道徳的価値に関わる資料や事前アンケート結果等を端的に見やすくまとめ、焦点化する。

<ICT活用のメリット>

導入の時間的な効率化を図り、展開での話合いの時間を十分に確保することができる。

教師の端的な発問と資料提示から、生徒は本時の学習のねらいを設定し円滑に既習内容等を踏まえた課題解決へ向かうことができた。

【展開】



グループで中心発問に対する個人の考えを伝え合い、協議内容を学習支援ソフトを利用し全体共有する。

<ICTを効果的に活用するためのポイント>

学習支援ソフトへ入力する時間を確保し、個人やグループの考えを端的にまとめるようにする。

<ICT活用のメリット>

個人やグループの考えを一斉共有で視覚的に捉えることで、多様な考えを知ることができる。

生徒は画面を通じて、適宜他のグループ協議の内容を閲覧し、自分の意見と比較しながら、考えを深めることができた。

【終末】



教師が机間支援の中で、適宜生徒の意見を入力し活用する。

<ICTを効果的に活用するためのポイント>

ICTのよさを生かし、手書き入力ですhort時間に、直感的に入力したことをデータで蓄積する。

<ICT活用のメリット>

学習記録の保存、積み上げが容易になり、評価等に活用することができる。

教師は生徒の発言やつぶやき、変容の記録等を蓄積することで、授業の評価や学級通信での紹介に活用することができた。

【活用したソフトや機能】・プレゼンテーションソフト・ファイル共有・表計算ソフト・学習支援ソフト